

# 3

## 「近所歩き」から地理散歩を始める

### ① まず半径 1 km と決める

地理が好き、というテーマから、地理好きの達人の紹介まで進んでしまいました。

話を戻して、「地理に少し興味がある」「なんとなく好きだ」という人は、まずは一歩進めて楽しみを充実させることに、目を向けてみましょう。

そこで何から始めるか迷った方には、まず自分の住んでいる街を歩いてみることをおすすめします。都市部にお住まいの方でしたら、最初は半径 1 km くらいの範囲を歩いてみましょう。自分の足で近辺の土地の起伏、道路や土地の形・特徴、土地利用の状態、人の流れ、動植物などに気をつけて観察しながら歩いてみると、知っているようでいて知らないことがたくさん出てきます。

歩くときは地図を持ちましょう。手持ちのパソコンから地図サイトにアクセスして、印刷するのが手軽です。

私の場合は「地理院地図」（国土地理院ホームページのトップページから入れます）を活用しています。標高もすぐにわかりますし、断面図や展望図なども加工できて、思わず引き込まれてしまいます。

「アナログな方法がいい」という場合は、紙地図を利用します。市販の地図帳を片手に、でも構いませんが、できれば国土地理院の地形図のほうがおもしろいと思います。「地図の旅」の創始者・大沼一雄氏がすすめるのは、住んでいる街の 2 万 5 000 分の 1 地形図を 4 倍にコピーして持ち歩くというものです。6 2 5 0 分の 1 になるのでとても見やすいのですが、拡大しただけなので、内容が詳しくなるわけではありません。その点、先ほどのような地図ソフトならば自由自在に拡大できるので便利ではありません。

ここでは仮に自宅から半径 1 km を歩く範囲と決め、その中で何をするかを考えていきます。「半径 1 km」というのは、後述するように往復で「2 km・30 分」という目安がわかりやすいので便利です。歩数にすると、1 km は平均 1 4 0 0 歩（歩幅によって違います）で、1 時間（4 km）歩けば 5 6 0 0 歩となり健康管理の面でも、1 日に最低必要とされる歩数 7 0 0 0（8 0 0 0 歩に近づくことができます。私はこの「半径 1 km・1 時間の範囲」というスケールのまち歩きを提案します（なお、都市部や市街地以外などで半径 1 km が現実的でない場合は、最寄りの集落や中心地、勤務先などを軸にして円を描いてみてはいかがでしょうか）。

## ② どこを歩くか考える

まず地図上に、自宅から半径1kmの円を、コンパスで描きます（グーグルマップや地理院地図の同心円機能を使うときれいに描けます）。この場合、行政界（市区町村の境界を越える）などがあったとしても、気にしません。

同心円を描いて東西南北を眺めてみると、日ごろから詳しいエリアもあれば、ふだんはあまり行かない方向で、遠く感じられるところも出てきます。地図を見ながら、あまり歩いたことのない道、入ったことのない路地や、地図の上で気になるものを拾い上げてみます（公共施設、神社仏閣、大きな建物、崖、川、窪地、不自然な形の道路、変わった土地など）。それらを考慮して、おおよその歩くコースや順序を決め、ルートを組み立ててみましょう。

ただ歩くだけではなく、どこかに目的地や立ち寄る場所を設けるのもよいと思います。ふだんあまり使わないスーパーで買い物をする、前から気になっていたカフェに一度入ってみる、ファストフードでポイントや特典を使ってみる、入ったことのないお寺に寄ってみるなど、楽しみはいろいろ考えられます。

## ③ 歩きはじめる

### ■ まず1時間歩く

半径が片道1kmなので、たとえば自宅から北へ往復すれば2kmで約30分。あわせて南へ一度往復すればプラス2kmで合計4km、約1時間になります。最初は、1日目に東へ1km往復、2日目は西へ1km往復、といった具合に少しずつ歩いてみて、これを繰り返します。

地図を片手に、改めて1時間でもゆっくり歩いてみると、思ったよりも広くて時間がかかることがわかります。そこに住んで相当年数が経っていても、一度も通ったことのない道や路地などが必ずあるものです。

### ■ 歩きながら観察する

観察するという意識を持って歩くと、近所の風景も新鮮に感じます。坂道、窪地、崖、河川・水路、道路や鉄道、公園、樹木などを見て、疑問が湧いたり不思議に感じたり、いろいろなことに気づくでしょう。ふだんより速度を落として歩きます。私の家の近くを例に、歩きながら気づいたことを思うままに書いてみると、こんな具合です。

・住宅地だが畑もところどころにある。直売所に置かれている野菜を見る（図1-4）。



図 1-4

23区内とは思えぬ巨大な無人野菜販売機  
(野菜 15種あり)

- ・雑木林のある大きな屋敷が残っている。区民農園やテニスクラブが多いことに気づく。
  - ・大半は平らな台地だが、坂道や低いところもある。わが家の付近は標高50mで、窪地、谷部分は45m前後である(図1-5)。
  - ・台地上にもよく見ると微妙な高低差があるのが不思議だ。
  - ・道路の大半は碁盤の目状で整然としているが、一方でなぜか不自然に急に幅が広くなるところや路地が現れるところがある(図1-6)。
  - ・狭い範囲に学校がいくつか集まっている。
  - ・区境があるが、境界線が道路の場合とそうでないところがある。
  - ・カーブが多く長い遊歩道がある。
  - ・スーパードは多いがコンビニは少ない。商店街は貧弱である。
- 表現としてこういう形でしかいえないものですが、当たり前前のことでよいので、どんどん出してみることです。



図1-5  
住宅地の中の大きな窪みと長い坂(中央部分が河川跡)




図1-6  
マンションの手前から急に広がり、150m先でまた狭まる道

観察しながら特徴のあるもの、変わったもの、目立つものなどをメモしたり、スマートフォンで撮影したりしてみます。常に「何だろう?」「なぜだろう?」と思って問題意識を持つことが大事です。これまでは通り過ぎていた石碑、説明板、看板、像、モニUMENTがあれば必ず立ち寄り、読んでみましょう。

## ■地図と見比べる

歩く範囲の地形図に掲載されている地図記号や地図表現を一つひとつ見て、地図と現地とを確認してみます。今まで気づかなかった地図記号などがあれば調べます。たとえば、わが家の近くに△マークがあるのを見つけたのですが、心当たりがありません。そこで現地へ行ってみると東京電力(パワーグリッド)の変電所があり、初めてその存在を認識しました。送電線が全く見えず、コンクリートの塊のような建物なので、気づかなかったようです。旅先の2万5000分の1地形図は細かく見ますが、自分の住まいの周辺の地形図ももっとよく見なければならぬと感じました。

地図を見るときは、主なポイントの標高も調べてみます。先述の「地理院地図」や「スーパード地形」などを使えば簡単にわかります(スーパード地形、<https://www.kashmir3d.com/online/superdemapp/>)。土地の高低がわかると凹凸に敏感になって、歩くことがますますお

8	7	6	5	番号	
70km圏				東京からの距離	
群馬県大泉町 	神奈川県松田・山北町 	千葉県大多喜町 	神奈川県秦野市 	候補地	
4万	計2万	9千	16万	人口(人)	
群馬県南東端に近い、南に利根川	神奈川県西端部 谷口集落、酒匂川の 氾濫と治水 山岳部は丹沢山塊と 清流、丹沢湖	房総半島のほぼ中央 山間部盆地、段丘上 の街 国内初の水溶性天然 ガスとその活用	丹沢山塊南部の陥没 盆地 扇状地と土地利用、 涸れ川、関東大震災 と震生湖、名水の湧 水群	自然に関係するポイント	
多文化共生施策と市民生活(多くの外国人登録・人口の2割)、人口密度高い、軍需都市から工業都市へ、工業製品出荷額大(食品、自動車関連、機械)	交通の要衝、旧街道、国道・高速道路、鉄道の街の盛衰、みかん	城下町と街並み、天然ガス井と天然ガス開発、いすみ鉄道	元タバコ産地・かつての取引・技術の中心、落花生、花卉、内陸工業団地と地下水、軽便鉄道跡	人文・社会に関係するポイント	





4	3	2	1	番号	
40～50km圏			東京からの距離		
埼玉県飯能市 	埼玉県久喜市・加須市 	千葉県流山市 	埼玉県吉川市 	候補地	
8万	計26万	20万	7万	人口(人)	
埼玉県西部 関東平野の西端、谷口集落、河岸段丘	埼玉県東北部 利根川中流域で関東平野の中央部 旧利根川流路の日本屈指の河畔砂丘、古利根川の乱流による低湿地、縄文期の奥東京湾、水生動植物	千葉県西北部 旧小金牧のある台地と江戸川沿いの低地	埼玉県南東部 江戸川と中川に挟まれた沖積地、水害の記憶、自然堤防	自然に関係するポイント	
林業(西川材)、青梅綺集散地、市場町、飯能戦争と戦禍、住宅開発と観光開発、レクリエーション施設開発	鷲宮神社門前町とアニメ聖地巡礼、こいのぼりの地場産業、水郷での新田開発、農村と都市の調和、うどん、平野での3県境	良質な米と水、江戸川水運、利根運河、みりん製造、土蔵造りの商家など江戸川沿いの街並み、旧葛飾県庁～印旛県庁、旧市街と首都近郊都市、つくばエクスプレスの沿線開発	吉川河岸の繁栄、稲作地帯、川魚料理、土俵だわら、なまずの里、武蔵野操車場跡地大規模再開発とまち作り	人文・社会に関係するポイント	

図2-1

1人でも地理歩きおすすめのまち

事例

1

一つのまちの全体像を楽しむ

「山梨県都留市を訪ねる」

○プロフィール

都留市は山梨県東部の「郡内地方」とも呼ばれる地域に位置する。甲府盆地・県西部地域を指す「国中地方」と対比され、山梨県の東側県域を形成している。川筋は相模川・桂川水系であり、相模・武蔵（関東地方）との結びつきが強い。地形的条件から水田は少なく、畑作が中心だ。

郡内地方の中心都市が都留市で、かつては山梨県第二の都市であったこともあるが、現在は人口は県内第9位の3万1000人である（訪問当時）。

この街は大月と富士吉田の間に位置し、富士山や富士五湖への旅行の際にはいつも通過してしまう街だが、城下町、陣屋町、機業地、文教都市、水力発電の街など多様な顔を持っており、地理好きとしては街全体を楽しむことができる。

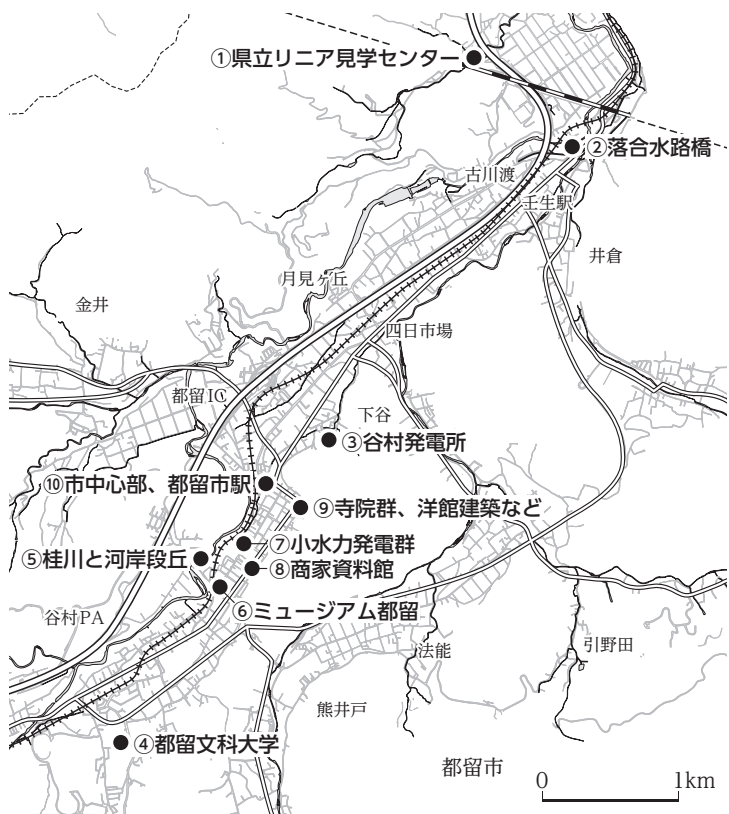


図 2-2

都留市を訪ねる（概念図）  
 （国土地理院「基盤地図情報」を利用して作成）



— 4月のある日

JR中央線大月駅出発 10:00

↓ 県立リニア見学センター（バス利用）

43kmのリニア実験線の脇に立つ山梨県の施設。1997年の実験線走行開始とともに開館した。リニアの概要がわかるようになっており、展望もできる。

リニアの話題は、その原理や走行性能、車両に関心が集まりがちだが、地理好きには、なぜここに実験線が建設されたのかに関心がある。路線の大半が山岳地帯のトンネルのため山梨が好条件であったこと、実験線が将来そのまま営業線に転用できること、東京にも近いことなどが要因ではないかと考えてみる。

↓ 東京電力駒橋発電所落合水路橋（かせい禾生駅近く、徒歩）（図2-3）

富士山からの豊富な地下水を集めた桂川から、安定的な水源を確保できるこの地に、1907（明治40）年に誕生した水力発電所。以降の大規模水力発電の始まりとなった記念すべき施設。登録有形文化財のレンガ造り水路橋（1・5km上流の取水口から駒橋発電所への水路）は、今も現役である。高い位置から眺めると、



図2-3 登録有形文化財の落合水路橋

レンガ造りの上部の溝に豊かな水が流れていて、橋はゆるやかなカーブを描いている。周囲の風景に溶け込んでおり、明治の人の電気に対する強い想いのようなものを感じる。

↓ 東京電力谷村発電所（都留市郊外、徒歩）

桂川水系には10カ所近い水力発電所が立地しており、産業遺産として歴史的価値が高い。都留市中心部からすぐの谷村発電所は、地元財界の名士であった雨宮敬次郎によって創設された桂川電力の発電所の一つ。発電所の前に祀られた桂川神社と、山の斜面を下る巨大な水管が見事。水力発電所というと黒四ダムのような巨大なものを想像してしまうが、日本の近代化において、当時の人々が東京に送るための電源を懸命に探し、桂川水系に初期の発電所を建設したのを知ることは必要だ。

↓ 都留文科大、楽山公園へ（徒歩、展望）

都留市が設置する公立大学法人で、教員養成の実績がある。現在公立大学で小学校教員免許を取得できるのは、全国でここを含む数校のみという。地元出身の学生は少なく、圧倒的多数の学生は全国から集い（学生の3分の2が県外という）、大学周辺はアパート、マンションが連なる学園町の様相である。実に都留市の人口の約1割が、この大学の学生で占められているという。大学



図2-4 楽山公園付近からの都留市眺望

# 1

## 楽しい下調べと準備

### ① 準備にあたって

地理の好きな皆さんは旅をする際、事前に目的地についてかなり情報を収集してから出発するでしょう。また、情報を効率的に集めることができる人が多いのではないかと思います。その地域のことを知れば知るほど興味が増し、立ち寄りたいたい場所も増えてくるでしょう。事前の予習は必要ですが、調べすぎないこともとても大事です。人間は調べれば調べるほど、一つのイメージに固まってしまったり、先入観でものを見てしまいがちだからです。

出かける前には、調べておくことが必要ですが、調べすぎないこと、そして当日はそれらを忘れてしまうくらいの気持ちで訪れることをおすすめします。

地理学者であり立命館大学の元総長でもあった谷岡武雄氏は、「イメージをつくり、イメージをこわせ」とアドバイスをしています。「事前に調べたこと、イメージとして持ったことを現地に到着した瞬間から忘れ、壊すようにすることがコツである」(『地理学への道』地人書房)。

一番大切なのは、調べたことに振り回されずに、いつも新鮮な目を持って自分の力で感じ、考える旅ではないでしょうか。そのような点も意識しながら、地理の旅の事前準備を始めましょう。なおこれは、日本国内の個人での旅を前提にしたものです。

### ② 地形図を入手する

下調べの入口は国土地理院の地図です。紙地図にこだわらずデジタル地図でももちろんよいのですが、地理好きにとってのリテラシー(基本能力・活用能力)として、まず2万5000分の1地形図(図3-1)をしっかりと使えるようにしたいものです。

ただ単に目的地の場所を知りたい、ルートを知りたいというのであれば、スマートフォンや

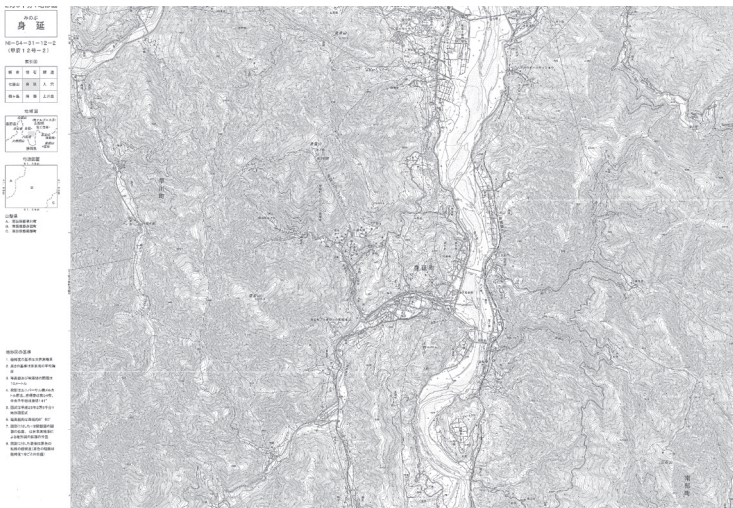


図3-1  
2万5000分の1地形図「身延」(国土地理院)